

26

公益社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 25 年 7 月 1 日(月)

□相談年度:平成 24 年度

■「仕事と人間関係に格闘する」■ ～借金のせいで上司に関係を迫られて～

40代女性からの相談も借金がらみのセクハラの訴えだった。お金を借りている上司に足元を見られ、肉体関係を迫られているという。シングルマザーで、1人娘を育ててきた。短大卒業後、娘は都会に出て就職したが…

- 仮名：沢口さん
- 年齢：45歳
- 性別：女性
- 問題：借金

【きっかけは金融会社からの電話】

娘は、東京で生まれて初めての一人暮らしを始めた。飲食系のアルバイトも始め、自分で返さなくてはとアルバイトも必死で、夜働いた。それから1年が経った頃であろうか、学校にも慣れお友達もたくさんできた。そして、友人達との遊びが楽しくてつい奨学金のお金に手を出してしまい返済が滞ってしまった。自分では知らずに、金融業として登録していないところからの借金である。30万円の借金はみるみる膨らみ、半年後には50万円になり、返済能力がない娘に代わって、実家の母親へ取り立ての電話が入るようになった。母親はそこで初めて娘の借金を知る。

慌てた母親は、自分の職場の上司に相談。20年近く、地元のスーパーで働いてきた。とはいえ、今もパートの身分だ。すぐにまとまったお金を用意できなかった彼女は、上司の申し出に甘えて50万円を借り、そのまま娘の借金返済にあてた。

【上司に対する甘えから、追い詰められていく】

沢田さんは関東地方のある都市に育ち、20代で結婚した。しかし、夫の借金問題などもあり離婚。子どもと病弱な母の面倒をみながら、20年近く地元のスーパーで働いていた。

娘の借金はなくなったが、普段の暮らしも苦しい。買ったばかりの車のローン返済もあった。娘の奨学金返済の手伝いもしなければならぬ。それまでは特別交友がなかった上司から、娘の借金返済の一件を機にたびたび誘われるようになった。そのたびに、5万、10万とさらに借金を重ねることになった。上司への借金は、一年半余りで200万円程になった。どうしてそこまで借り続けてしまったのか、彼女自身にもわからない。この頃から上司の態度が変わってきた。

「善意で貸した分もあるけど、好意もある。前から好きだったんだ、君のことが」密会のたびにすりよってくる。あからさまにホテルに誘うようにもなった。「そういうつもり、ありませんから」はねのけると、男は態度を急変させ、借金の即時返済を強く迫ってきた。「訴えてもいいんだよ、こっちは」上司は急に強気になった。人事権は上司が握っている。いつクビを切られるか。気が気ではない。「もう……八方塞がりだ。どうしたらいいか」そんな電話だった。

【協力してもらえる第三者を作っておく】

まず、相手とのやりとりをICレコーダーに録音し、メモを残しておくことを勧めた。その上で、肉体関係を強要された時、どうしのぐか。こういう時、目には目を、男には男を、である。借金をネタに上司が迫ってくるのは、沢田さんが独り身だとわかっているからである。拒む場合は、決まった人がいることを口にするとう効果的だ。

「実は、結婚を約束している人がいるので、それだけは……」そう言って、一線を越えさせないように予防線を張る。実際相手がいるとわかれば、社内セクハラに加害者にとっては「面倒に巻き込まれるかもしれない」とブレーキになる。それでもしつこい場合は、知り合いの男性に一肌脱いでもらう。「うちのがいつもお世話になっております」あくまで低姿勢に、誠実に、第3の男に登場してもらうことで、セクハラ加害者も及び腰になるだろう。「借金のことは、私もつい先日聞いたばかりなんです、ご面倒をお掛けして申し訳ありません。今後、少しずつでも返済すると言っておりますので、なんとかお時間いただけませんかでしょうか」

借金をカタに彼女に肉体関係を迫っている自分の悪行が、その男に筒抜けになっているのではないかと、セクハラ男もひるむはずだ。卑劣なセクハラはセクハラとして、一方で、借金は借金である。返済しなければならない。毎月1万円ずつなら2百ヶ月。2万円ずつなら百ヶ月である。もしも借用書を作成していなければ、この際、司法書士か行政書士に頼んで、例えば「毎月2万円ずつ返済します」と改めて書面にしようアドバイスした。セクハラも借金も間に第3者に入ってもらうことで、事態は開けていく。



賛助会員定例会（東北地区）で挨拶をする玄秀盛代表理事

【ここが POINT】

借金つった、浮気した、仕事で失敗した、人を傷つけること言った。後悔してたって、そういう事実は変えられないんだから。その事実の前でしゃがみ込んでいても、この先も何も変わっていかない。やったことを認めて、じゃあ、どうするかって思ったときに、立ち上がれるんだ。まず、自分を認めて、自分に勝つ。自分に勝たないかぎり、相手には勝てない。なのに、自分の足腰も立たないうちに、相手を打ちのめそうとめちやくちゃんに刀を振り回すから、その刀で自分まで傷つけてしまうんだ。大事なのは、いま、勝つこと。「今日の己に明日は勝つ」じゃない。今日の己、いまの己には、「いま、勝つ」こと。いまを勝つ、今日を勝てれば、明日は、不安と恐怖じゃなくなる。そうすれば、自分は勝てたんだって、しっかりした根拠ができる。これが「自信」になる。

今日のことは今日、始末をつける。今日をきちんと始末つけられれば、昨日から引きずっていた自分に終始符を打てる。自分の失敗も今日で終わりって、認められるようになる。